

-
-
- [Deutsch](#)
- [編集](#)
- [連絡先](#)



2012年度フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞の候補者募集

ドイツ語

ドイツ連邦共和国大使館は次のとおり来年度のフィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞候補者を募集している。この公募は今回(2012年度)をもって第34回目を迎える(これまでの受賞者の氏名は[こちら](#))。

この賞は来年度もこれまで同様、日本とドイツ連邦共和国における文化および社会のよりよい相互理解に貢献し、学問上すぐれた業績をあげた、日本人研究者に授与される。賞はアレクサンダー・フォン・フンボルト財団の年次大会の際にドイツ連邦共和国大統領より授与される。

1. **待遇:** 賞金は5万ユーロ。受章者はドイツ連邦共和国における1年間の研究滞在に招待される。滞在は数回に分けて行うこともできる。その際の往復旅費は1回のみ賞金とは別途に支給される。
2. **対象:** 学問上すぐれた業績をあげられた日本人研究者。年齢は50歳未満で、一応のドイツ語知識のある方。
3. **推薦方法:** 候補者を推薦できるのは、日本の各大学長のほかに、国の研究機関(研究開発法人)の理事長、これまでのジーボルト賞受賞者、日本の各ゲーテ・インスティテュートの所長、ドイツ日本研究所所長ならびに東京のドイツ連邦共和国大使と大阪の総領事。元フンボルト研究奨学生および研究賞受賞者は日本の大学の学長を通じて推薦することができる。
4. **期限:** 推薦は、ジーボルト賞事務局の任務を受け持つドイツ学術交流会東京事務所宛に **2012年1月23日(必着)**までに提出のこと。
〒107-0052
東京都港区赤坂7-5-56 ドイツ文化会館内
ドイツ学術交流会東京事務所
電話 (03) 3582-5962
ファクス (03) 3582-5554
e-mail: daad-tokyo@daadjp.com
5. **提出書類:** 推薦にあたっては、ドイツ語(または英語)および日本語にて推薦状ならびに次の書類を提出のこと。
 - 履歴書
 - 出版物を網羅したリスト
 - 学問上の業績および文化的功績の紹介
 - 外部の方による推薦状

フィリップ・フランツ・フォン・ジーボルト賞受賞者一覧

沼 正作博士	生化学	京都大学教授	(1979年度)
石井紫郎教授	法学	東京大学教授	(1980年度)
木村 敏博士	精神医学	名古屋大学教授	(1981年度)
木村直司博士	ドイツ文学	上智大学教授	(1982年度)
阿部光幸博士	医学	京都大学教授	(1983年度)
北川善太郎博士	法学	京都大学教授	(1984年度)
中村英夫博士	建築工学	東京大学教授	(1985年度)
大西健夫博士	経済学	早稲田大学教授	(1986年度)
三島憲一教授	ドイツ文学・哲学	学習院大学教授	(1987年度)
安達恵美子博士	眼科学	千葉大学教授	(1988年度)
藤田宙靖博士	法学	東北大学教授	(1989年度)
大橋良介博士	哲学	京都工芸繊維大学教授	(1990年度)
越 宏一博士	美術史	東京芸術大学教授	(1991年度)
山田作衛博士	物理学	東京大学教授	(1992年度)
西村重雄博士	法学	九州大学教授	(1993年度)
浅島 誠博士	生物学	東京大学教授	(1994年度)
松浦 純教授	ドイツ文学	東京大学教授	(1995年度)
高橋 研博士	工学	東北大学教授	(1996年度)
濱砂敬郎博士	経済学	九州大学教授	(1997年度)
二間瀬敏史博士	物理学	東北大学教授	(1998年度)
西川伸一博士	医学	京都大学教授	(1999年度)
山本健児博士	地理学	法政大学	(2000年度)
柴田利明博士	物理学	東京工業大学	(2001年度)
小藺英雄博士	数学	東北大学	(2002年度)
瀬川裕司博士	ドイツ文学	明治大学	(2003年度)
大貫敦子教授	ドイツ文学・哲学	学習院大学	(2004年度)
鰐田武志教授	医学	東京医科歯科大学	(2005年度)
井田 良博士	法学	慶應義塾大学教授	(2006年度)
小田部胤久博士	美学	東京大学教授	(2007年度)
田中功博士	材料工学	京都大学教授	(2008年度)
小川暁夫博士	ドイツ語学・言語学	関西学院大学教授	(2009年度)
田中純博士	思想史	東京大学教授	(2010年度)
香取秀俊博士	物理	東京大学教授	(2011年度)



- [ホーム](#)
- [カレンダー](#)
- [DAAD\(ドイツ学術交流会\)とは](#)
 - [日本との交流の記録](#)
 - [職員](#)
- [ドイツ語を学ぶ](#)
- [ドイツ留学オンラインパンフレット](#)
- [ドイツ留学FAQ](#)
- [DAAD留学アドバイザーネットワーク](#)

Sample

履歴書

名前

誕生年月日および誕生地

住所

電話

電子メール

19 年 月 日 / 県

／携帯

@.jp

学歴

19 年 月—19 年 月

高等学校

19 年 月—19 年 月

大学 部 科 (専攻)

19 年 月—19 年 月

大学大学院 研究科修士課程 (専攻)

19 年 月—19 年 月

大学大学院 研究科博士後期課程 (専攻)

19 年 月

博士 () (大学)

職歴

19 年 月—19 年 月

大学 学部助手

19 年 月—19 年 月

大学 学部助手

19 年 月—20 年 月

大学 部助教授

20 年 月—

大学 部准教授 (現在に至る)

Sample

出版物リスト

- 1 「[]の[]」修士論文([]大学) 19[]年[]月[]日。
- 2 「ドイツ[]の[]」『史林』(史学研究会) []巻[]号、19[]年[]月[]日、[]—[]頁。
- 3 「[]世紀[]の[]」『西洋史学』(日本西洋史学会) 1[]号、19[]年[]月[]日、5[]—5[]頁。
- 4 「[]世紀ドイツにおける[]の[]——[]の[]を[]——」『史林』(史学研究会) []巻[]号、19[]年[]月[]日、1[]—1[]頁。
- 5 「[]年代[]の[]と[]」『西洋史学』(日本西洋史学会) 1[]号、19[]年[]月[]日、1[]—[]頁。
- 6 「[]世紀ドイツの[]と[]」未公刊博士論文([]大学)、19[]年[]月[]日、総頁[]頁。
- 7 「[]世紀[]の[]」『[]大学[]学部紀要([]・[]学編)』([]大学[]学部) []巻[]号、19[]年[]月[]日、1[]—[]頁および[]巻[]号、19[]年[]月[]日、4[]—4[]頁。
- 8 「[]」『[]』([]年)——[]世[]の[]——」『[]大学[]学部紀要([]学編)』([]大学[]学部) []巻[]号、19[]年[]月[]日、1[]頁—1[]頁。
- 9 「[]」『[]における[]』([]年)——[]世紀[]の[]——」『[]大学[]学部紀要([]学編)』([]大学[]学部) []巻[]号、20[]年[]月[]日、1[]頁—1[]頁。
- 10 「[]・[]・[]——[]世紀[]——」『[]大学[]学部紀要([]学編)』([]大学[]学部) []巻[]号、20[]年[]月[]日、2[]—2[]頁。
- 11 「『[]』と[]——[]と[]——」『史林』(史学研究会) []巻[]号、20[]年[]月[]日、[]—[]頁。
- 12 「[]世紀[]の[]」『西洋史学』(日本西洋史学会) []号、20[]年[]月[]日、[]—[]頁。
- 13 「[]世紀[]における[]——[]の[]——」『[]大学[]学部紀要([]学編)』([]大学[]学部) []巻[]号、20[]年[]月[]日、[]—[]頁。
- 14 「[]の[]——[]と[]——」『[]論集 []

Sample

- 15 [redacted] ([redacted] 大学 [redacted] 学講座) 20 [redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日、[redacted] 頁。
- 16 [redacted] の [redacted] 『 [redacted] 大学 [redacted] 学部紀要([redacted] 学編)』 ([redacted] 大学 [redacted] 学部) 巻 [redacted] 号、20 [redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日、[redacted] 頁。
- 17 [redacted] における [redacted] と [redacted] 『 [redacted] 史学』 ([redacted] 大学史学会) 第 [redacted] 号、20 [redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日、[redacted] 頁。
- 18 [redacted] の [redacted] — [redacted] — 『 [redacted] 大学 [redacted] 学部紀要([redacted] 学編)』 ([redacted] 大学 [redacted] 学部) 巻 [redacted] 号、20 [redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日。
- 19 [redacted] の [redacted] 『 [redacted] 大学 [redacted] 学部紀要([redacted] 学編)』 ([redacted] 大学 [redacted] 学部) 巻 [redacted] 号、20 [redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日、[redacted] 頁。
- 20 『 [redacted] < [redacted] > を [redacted] 』 [redacted] 堂、20 [redacted] 年 [redacted] 月。

Sample

学問上の業績および文化的功績の紹介

大学 学部 博士は、大学大学院において研究を開始して以来、を研究してきました。彼の中心的な研究領域は、の、そしてです。博士学位論文「の」とによって19年 月に大学大学院 研究科から彼に学位が授与されました。彼は、の や について、『史林』や『西洋史学』などの日本の様々な学術雑誌に多くの論文を発表してきました。

その間、彼は20年 月から20年 月まで の に滞在し、そこで と の についての研究を進めました。20年から20年にかけて彼は、の の の 日本の研究プロジェクトに参加しました。このプロジェクトの成果の一部を、彼は他の参加者とともに、20年に 学会の大会（ ）で行われたシンポジウムで報告しました。同年、教授（ 大学）が で開催した学会、「 」に参加しました。

における研究とプロジェクトや学会への参加を通じて彼は、をよりよく把握できるような正確な認識を得るようになりました。

彼の最大の学問的成果は、20年 月に公刊され、 に関する彼の研究が集約された、著書『 — — 』です。この著作においては1年代から にかけての が分析されています。本書の目次は以下の通りです。

序章

第Ⅰ部 の

第1章 の

第2章 「 」と — — と

第3章 — — の

第Ⅱ部

第1章 の

第2章 の と

第3章 の — —

第4章 の

Sample

第Ⅲ部 [REDACTED] の [REDACTED]

第1章 [REDACTED] ([REDACTED] 年) と [REDACTED]

第2章 〇〇の〇〇

第3章 [redacted] の [redacted] — [redacted] の [redacted]

結 論

[REDACTED]

本書の序章において、博士は の と についての研究を概観しています。 の概観から彼は、 の理解のためには と の研究が必要であると指摘します。 の研究については、 は、 考察しています。 とは、 の 、 の 。 、彼は を と関連付けてとらえるという立場をとります。

具体的分析の際に彼の関心の中心にあるのは[]です。その際、[]
[]や[]といった当局、[]や[]や[]
[]といった結社、[]
[]などといった[]の[]が分析されます。[]博
士は、[]、[]
[]、そして[]についても分析しています。

彼の著作の主たる成果は以下の通りです。

- 1) [REDACTED]
[REDACTED]。 [REDACTED] は、 [REDACTED] の [REDACTED]
[REDACTED]。 2) [REDACTED]、 [REDACTED]
[REDACTED]。 3) [REDACTED]
[REDACTED]、 [REDACTED]、 [REDACTED] の [REDACTED]
[REDACTED]

結論において、博士は著作の成果をよりの広い脈絡のなかに位置づけることを試みています。

- 1) 〇〇の〇〇を〇〇、〇〇博士は成果を〇〇と関連付け

Sample

ます。彼は、の、
が。

2) 博士は、
。

彼の著作の学問的功績は、次の3点です。1)本書は、を
。2)本書は、
究が。

3) 博士の著作は、
。

博士の著作は、に関する日本人による研究の傑出した業績として高く評価されえるものであり、将来にわたって日本の研究に影響をあたえるでしょう。博士は今や日本におけるの第1級のといえます。

その著作によって博士はを日本に紹介したことになります。それは、

。博士は、に対する日本人の理解に大きな功績を果たしたといえます。

大学大学院 研究科教授